

「蕨の会」行田市ミニツアー開催！（さきたま古墳と忍城^{おしじょう}見学）

成澤文和（4組、「蕨の会」会長）

5月14日（火）、昨年発足した埼玉在住同期の集まり「蕨の会」として、初めての小旅行を実施した。行先は映画「のぼうの城」（12年11月公開）の舞台となった埼玉県北部の行田市である。

参加メンバーは、高崎から越境参加の中山正光（11組）、田村栄治（1、志木市）、上原昇（2、さいたま市）、関賢治（2、蕨市）、成澤文和（4、さいたま市）の少数精鋭5名である。

JR行田駅前に集合して、市内循環バスで最初に訪れたのが、さきたま古墳公園内にある「さきたま史跡の博物館」。そこには公園内の稲荷山古墳から昭和43年に発掘された国宝金錯銘鉄剣をはじめ武具、馬具などが展示されており、参加メンバーも古代の展示品に興味深く鑑賞していた。

なおこの辺りの住所は行田市埼玉（さきたま）であり、埼玉県の名産地でもある。

昼食は近くの食堂でご当地B級グルメ「ゼリーフライ」も賞味したが、評価はいまひとつであった。

公園内の古墳は全部で九つあり、規模としては東日本最大級、特に二子山古墳は長さ138mの前方後円墳で園内最大。丸墓山古墳の高さ19mの頂上に立つと行田の市街地が遠望され、忍城の御三階櫓も霞んで見ることが出来た。丸墓山古墳はその後思わぬ形で歴史の舞台となる。それは1590年、豊臣秀吉の小田原征伐（北条攻め）により、北条方の成田氏の忍城が石田三成に攻められた。三成はこの丸墓山古墳の頂から忍城を見下ろし水攻めを思いついたとか。

いずれの古墳も5世紀後半から6世紀前半にかけて作られたものであり、当時の豪族はどれほどの力があつたのだろうか。

古代ロマンが漂う古墳公園を後にして向かったのが忍城と城のなかにある行田市郷土博物館である。

映画で話題になっていた頃はかなりの人で賑ったようだが、平日と暑さのせいか閑散としている。

北条方の諸城は小田原城と忍城以外すべて豊臣軍に落城させられるなか、この忍城は石田三成以下の豊臣の大軍に抵抗したことが語り継がれている。

また忍城と上田城は別名不落城と呼ばれ、ここのお守りは受験生に大変な人気とか。

忍城から秩父線の行田市駅まで蕨の街を見物しながら散策する。行田は足袋の産地として有名だが、足袋の保管、集積のため蔵が作られ、現在も200もの蔵が保存されている。

30度を超える暑さの中でのツアーを終え、17時から熊谷駅前の居酒屋で反省会と懇親会となった。

無事に予定通り名所旧跡を回れ、会長として肩の荷が下りてホッとした。

次回は、来年以降の企画打ち合わせを兼ねて、蕨駅前「飛雄馬」で暑気払いの会を開催の予定。

（5月17日記）

【写真説明】

- ① 行田駅に集合（左から中山、関、上原、田村、成澤） ⇒
- ② さきたま古墳公園にて
- ③ 丸墓古墳頂上にて
- ④ 忍城御三階櫓前にて
- ⑤ 熊谷での懇親会





写真②



写真③



写真④



写真⑤